

仕様書

イノベーション戦略センター

1. 件名

フロンティア領域等でのイノベーション・エコシステム構築推進のための俯瞰手法の高度化に関する調査

2. 目的

近年、持続可能な開発目標（SDGs）の達成やカーボンニュートラルの実現等、グローバルな社会的課題の解決に向けた社会変革型のイノベーション（トランスフォーマティブ・イノベーション）の必要性が高まっており、各国において、新たな政策アプローチに基づく試行・実施が進められている。

トランスフォーマティブ・イノベーションの創出に向けては、あるべき将来像等を描き、バックキャストを行うことで将来像の実現に求められる価値や機能を導出し、必要な価値や機能を生み出すためのシナリオについてエビデンスに基づいた戦略を策定していくことが重要となる。また、OECD においては「先見性ガバナンス」、内閣府においては「総合知」など専門家だけでなく、非専門家、一般市民や企業など、多様な主体との連携を重視する考え方が提唱され、各国・各機関にて実践的な取り組みが進んでいる。

NEDO イノベーション戦略センター（以下、TSC という。）は、あるべき将来像の実現に求められる価値や機能として、新たに組み込むべき領域（フロンティア領域）を提案し、対外的に発信、議論喚起するため、2024 年度から定常的な活動として、Innovation Outlook の策定を開始し、2025 年 7 月に Ver. 1.0 をとりまとめた。Innovation Outlook の発信を通じ、経済産業省、NEDO 内のみならず、産業界、スタートアップ、VC・金融機関、国際連携・展開先などのステークホルダーに向けて、フロンティア領域等でのイノベーション・エコシステムの構築を推進していく。

フロンティア領域等でのイノベーション・エコシステムの構築の実現に当たっては、従来の産業や事業に対応した既存領域に加え、中長期的な視点から既存領域の延長にない新たな領域又は複数の領域にまたがる融合領域の探索や体制構築が求められることになる。

そこで、本調査事業は、Innovation Outlook Ver. 2.0 の策定に向けて、Ver. 1.0 策定での課題を踏まえ、将来像からのバックキャストによる新たな価値や機能の抽出、価値や機能を起点とした技術分野間の融合領域の探索・体制構築について、多様な主体との協同を通じて検討を行い、イノベーションを創出するエコシステム構築推進に向けた俯瞰手法を高度化することを目的とする。

3. 内容

2024 年度に作成した Innovation Outlook Ver. 1.0 の課題を把握したうえで、Innovation Outlook Ver. 2.0 での新規領域や融合領域（TSC の各ユニットが所掌する分野をまたぐ領域）の具体的な提案に向けて、以下の（１）～（８）を実施する。

毎月 2 回程度（または隔週）、進捗共有の打ち合わせを実施し、調査期間の中間（2025 年 11 月～12 月頃）に中間報告を行うことを想定している。

（１）新規領域や融合領域の探索・創出手法、効果的な推進等に関する調査

イノベーション創出に向けた、新規領域や分野横断による融合領域の探索・創出手法（未来像や社会課題起点で必要価値や機能、技術の関係性を整理したロジックモデル／ツリー等の検討・活用方法、組織内外の異なる分野の専門家同士や専門家と非専門家の参画等によるワークショップ等のアイデ

ィア創出の方法を含む) について国内外の政府機関及び民間企業の既存の取り組みのベンチマーク調査を行うこと。

また、探索・創出手法によって見出した融合領域候補について、どのような意思決定を行った上で、実際に取り組む領域を決定し、具体的な責任者の決定含む実行的な推進体制をいかに形成しているか等の意思決定や推進プロセスについて調査すること。

調査に当たっては、文献等公開情報を整理し、NEDOと相談の上、必要に応じ、国内外の機関に対して4件程度ヒアリングを実施し、調査の取りまとめに反映すること。

(2) 融合領域の探索・創出手法の試行

(1) のベンチマーク調査結果等をもとに探索・創出手法の活用方策を検討し、NEDO内外から参加者を募り、ファシリテーターを確保したうえで、ワークショップ等を3回程度試行すること。

なお、ワークショップ等の実施に当たっては、アジェンダをNEDOと相談の上で設定し、適切な規模の会場を確保すること。また、ワークショップ等の議論を活性化するために、必要に応じ、外部有識者による話題提供を実施すること。

(3) 全体俯瞰図の更新

(2) を活用しつつ、Innovation Outlook Ver. 1.0 で作成した「全体俯瞰」(※) について、各分野の分析結果から当該俯瞰図を更新すること。

図の作成にあたっては、委託期間中にNEDOと調整を行った上で、最終化までの作業支援を行う。

※Innovation Outlook Version 1.0 p.52 参照。

<https://www.nedo.go.jp/content/800027825.pdf#page=58>

(4) 全体ロジックツリーの更新

(2) 及び(3) を踏まえ、Innovation Outlook Ver. 1.0 で示した「全体ロジックツリー」(※) について、各分野で作成するロジックツリーの社会課題と解決策(提供価値・機能)の解析手法を検討し、それらの分野を横断し網羅的にまとめ、最終化までの編集作業を支援すること。

特に、提供価値・機能を起点・軸として全分野を可能な限りつなぎ、関係性を明らかにし、新規領域や融合領域などの検討に資する社会課題・機能の全体図を検討すること。

技術と社会課題をつなぐことによる新たな価値創出を目指し、技術起点のみではなく、社会課題起点から解決策(提供価値・機能)という流れに重きを置いて作成する。

※Innovation Outlook Version 1.0 p.273 参照。

<https://www.nedo.go.jp/content/800027825.pdf#page=279>

(5) Innovation Outlook Ver. 2.0 策定におけるとりまとめ支援

(1) ～(4) の調査結果に基づき、Innovation Outlook Ver. 2.0 を統合するにあたり各分野における調査、分析結果(内容)をレビューし、提案した社会課題と解決策(提供価値・機能)の解析手法に基づき、アドバイスをを行い、とりまとめの支援を行うこと。

具体的には、年度内に順次作成する ①骨子(ロジックモデル)、②ファースト・ドラフト、③セカンド・ドラフト、④最終版ドラフトについて、各分野から提出されたドキュメント等を、提案する社会課題と解決策(提供価値・機能)の解析手法に基づき統合し、Innovation Outlook Ver. 2.0 完成に向けて最終化するまでを対象とする。

(6) ドラフト内容のレビュー

(5) のとりまとめと並行し、①骨子（ロジックモデル）、②ファースト・ドラフト、③セカンド・ドラフト、④最終版ドラフトそれぞれの内容についてレビューを行い、本文の校閲・校正を行うこと。
また、全体の構成・流れから追記／修正事項の有無を確認し、適宜編集を行うこと。

(7) Innovation Outlook の発信や双方向コミュニケーションの方策についての検討

Innovation Outlook の我が国政府シンクタンクにおける立ち位置を明確化し、効果的な発信の方策、Innovation Outlook を通じた各ステークホルダーとの交流・議論を促すイベントやプラットフォーム構築に関する検討を行い、今後に向けた提言をすること。

(8) 今後に向けた課題の整理

(1) ～ (7) を通じて明らかになった課題を次年度以降の Innovation Outlook 更新・策定に向けて整理すること。

4. 調査期間

NEDO が指定する日から 2026 年 3 月 31 日まで

5. 報告書

提出期限：2026 年 3 月 31 日

提出方法：NEDO プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

6. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

以上